

建設産業委員会

勝山駅舎改修案について

12月議会では9月議会に引き続き、駅舎の改修について議論がありました。駅前ロータリーの工事が完了し、駅前広場も完成しました。委員会では待合室のあり方などの内部構造に加え、外観の整備についても種々意見が出されました。

行政視察

当委員会では、去る11月8日、9日に広島県府中市の中心市街地活性化及び広島県竹原市の道の駅整備による地域活性化について視察しました。

府中市の市街地活性化

府中市でも全国的な流れと同様、中心市街地が拡散しています。市内で大型店舗の建設は進んでいませんが、マイカーでの移動が便利な国道486号沿線など、主に隣接する福山市の郊外に大型店舗が乱立し、生活圏が拡大しているためです。

一方、今後予想される少子高齢化の影響で、車を持たない高齢者が生活できない状況（買い物難民等）が懸念されています。そのため中心市街地の定住人口を増やそうという発想ではなく、都市機能を集約し、さらなる少

子高齢化の時代に備えようとしていました。都市機能とは主に生活必需品等を購入できる商店街、病院、公共・公益施設などを対象にしています。定住化の促進のために団地の造成もしたが、あまり効果は発揮していないとのことでした。

一方でこれらの動きを敏感に感じ取った民間資本により、マンションが2棟建設されたとのことでした。



竹原市の道の駅整備による地域活性化

平成16年10月、警察署の移転に伴い、市中心部に広大な跡地が発生しました。この場所は伝統的建造物群保存地域の玄関口であり、国の補助を受け道の駅を整備することになりました。

①機能

機能としては休憩機能、情報発信機能、地域の連携機能に加え、防災拠点としての機能を有していました。この防災機能として、300人が3日間一時避難できるように、受水槽、浄化槽、自家発電施設、24時間対応の公衆電話を整備していました。

②管理運営

平成23年度末までは暫定的に市で直営しています。とはいえ、売店、レストランは市に経営のノウハウがないため、市と商工会議所で結成する地域ブランド推進協議会を組織し、この協議会に管理委託していました。

③地域活性化について

各種イベントとの連携を図り、市内、県内の商品の販売をしていました。また、委託販売方式を実施しており、登録者は約200人に至っているということです。

④実績

売上高及び来場者数については、当初の目標を上回っており、30万人の来場も目指せるのではないかといいました。

竹原市の場合、国道185号沿線に道の駅などの施設がなく、通常の交通量も非常に多いことから、特別な経営努力がなくても一定の実績が期待できるものと思われました。

一方、今後の国土交通省の補助金はあまり期待できないのではないかといい意見もありました。

これらの視察の結果等を受け、委員会では会期中に協議会を開催し、勝山市でのまちなか誘客の方法について、種々協議しました。